

区自治協議会提案事業 事業評価書

西区自治協議会

区 分	内 容
テーマ・事業名	① 支え合いの大切さ普及事業（継続） ② 西区「すき間」コネクトプロジェクト（新規） 【事業費予算 計 600 千円】
事業目的・概要	① 令和4年度に行った「支え合い」に関するアンケート調査結果から、中学生から50代までの現役世代において、支え合いの重要性は認識しているものの具体的に行動できていない人が多いことが分かった。これを踏まえて、現役世代を中心に普段から必要なときに能動的に支え合える環境づくりを促すためのきっかけづくりに取り組む。 ② 事業検討ワークショップから出されたキーワードから「人と人との「間」を埋める」をテーマとし、区内の福祉情報を収集し、ネットワーク化・一覧化させ、必要な人に必要な情報を届けること（＝「すき間」を埋めること）を目指す。
事業の実施実績 （実施回数、参加者数など）	① 「5のつく日は“ご”あいさつデー」の水平展開 支え合いの行動を起こす際のきっかけとなる“他者への声掛け”が自然に出来る環境づくりのため、「毎月5のつく日はごあいさつDAY」をキャッチフレーズとした「あいさつ運動」の水平展開に向けた活動を実施した。 ○ 区内団体への活動周知 地域や各団体で活動が広がり浸透していくよう、区内の各コミュニティ協議会や自治会、公立学校などに向けて、活動の周知ならびに広報媒体（のぼり旗・ポスター・広報カード）の提供を呼びかけるチラシの配布や広報媒体の提供を行った。 【チラシ配布団体】 ・ 区内コミュニティ協議会（ならびに各所属自治会）：15団体（314自治会） ・ 区内公立小中学校：28校 【協力（広報媒体受け取り）団体】… 全63団体（R6～通算） ・ 区内コミュニティ協議会（ならびに各所属自治会）：39団体 ・ 区内小中学校／幼稚園：18校 ・ 事業者など：6団体 ※ 配布媒体数（R6～通算） のぼり旗…217本 / ポスター…151枚 / 広報カード…約12,500枚 ② 中学生の放課後居場所マップづくり（仮称） 幅広い対象が想定される本事業のキックオフ企画として、部活動地域展開が進む中で、放課後の居場所がない・わからない状態の中学生世代のこどもを減らすことに目的を絞り、アンケート調査を通し、中学生の放課後の居場所づくりに役立つ成果物の作成を企画した。 (1) 「放課後の過ごし方」に関わるアンケート調査の実施 ・ 調査対象：区内公立小学校（高学年）及び公立中学校の児童・生徒 ・ 調査方法：GoogleフォームによるWEBアンケート（任意回答） ・ 実施期間：令和8年1月14日（水）～ 令和8年1月31日（土） ・ 回答数：3,255件（回答率：51.0%） (2) アンケート結果の分析 ならびに 企画検討 (1)のアンケート実施後の部会で結果を分析し、どのように企画内容に反映させていくかの検討を行いました。検討の結果、マップ等の成果物にまとめることで、放課後の居場所づくりにつなげることとした。
事業の評価 （地域課題の抽出方法や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など）	【地域課題の抽出方法・企画立案について】 ① 令和4年度実施のアンケート結果に基づき開始した、支え合いの行動を起こすきっかけづくりとしてのあいさつ運動の水平展開の継続ということで、データに基づき、かつ地域で取り組みやすい活動の形態を企画できた点が評価できる。 ② 委員が身近に感じていることから課題を抽出し、実際に対象世代にアンケートを実施し、その分析結果に基づいて、課題を解決する取り組みを企画したことで、事業対象の立場のニーズに沿った事業を企画できた点が評価できる。 【事業の公益性・実効性・効率性の評価】 ① 今年度から「より地域へ浸透させていく」ことを目指し、委員による運動実施ではなく、各地域・団体で継続してもらえるよう、活動の主眼を「各団体の活動支援（広報媒体配布など）」に切り替えたことで、事業の実効性が向上したと評価できる。また、事務局や各委員のつながりのある各団体への依頼や会議での説明機会を活かし、効率よく事業広報が行えた。 ② 全国的に課題となっている部活動の地域展開後の放課後の過ごし方について、実際の中学生世代の考えを知ることができたという点で、一定の公益性があったと評価できる。また、アンケート実施にあたっては、事務局と公立学校のコネクションを最大限にいかして、説明段階から実施段階まで円滑に進行ができ、実効性や効率性の面も高く評価できる。
備考	